

第7回フランチ・リスト国際ピアノコンペティション

The 7th International Franz Liszt Piano Competition in Utrecht, 2005

今井 顕
IMAI Akira

国立音楽大学研究紀要第40集抜刷

2006年3月24日発行

第7回フランツ・リスト国際ピアノコンペティション

The 7th International Franz Liszt Piano Competition in Utrecht, 2005

今井 顕

IMAI Akira

本稿は2005年4月にユトレヒト市（オランダ）で開催された第7回フランツ・リスト国際ピアノコンペティションの詳細である。筆者はこのコンペティションにおける国際審査員として招聘され、すべての演奏の審査に携わった。以下はそのデータの報告である。

キーワード：リスト liszt、コンペティション competition、ピアノ

1. 正式名称

7de Internationaal Franz Liszt Pianoconcours
(第7回フランツ・リスト国際ピアノコンペティション)

2. 開催地

ユトレヒトUtrecht市（オランダ）。
コンペティションの予選が行われた会場はMuziekcentrum Vredenburg（大小のコンサートホールや多目的ホールが集められた音楽センター）。

3. 開催スケジュール

審査員にとってはそれほど負担の大きくないスケジュールだった。第1次予選中こそ連日のハードスケジュールとなるが、その後は適度に空き時間もあり、ピアノの練習を希望する審査員にはそのための場所もアレンジされた。

4月11日に行われたシンポジウムは演奏会場で行われ、コンペティションに興味を持つ聴衆（参加者はボランティアとして協力している現地のホストファミリーの家に宿泊しており、そうした関係者も多数出席していた）と審査員との一問一答という企画だった。進行は審査員長が担当。

ファイナルの課題曲（ピアノ協奏曲）の協演を担当したオーケストラはNederlands Radio Symfonie Orkest（オランダ・ラジオ・シンフォニー交響楽団）、指揮はジャン＝ベルナール・ボミエJean-Bernard Pommierだった。

日時	予定
4月3日	オープニングレセプション/参加者の演奏順くじ引き
4月4日	第1次予選（小ホールで20時15分より）
4月5日	第1次予選（小ホールで10時/14時/20時15分）
4月6日	第1次予選（小ホールで10時/14時/20時15分）
4月7日	第1次予選（小ホールで10時/14時/20時15分）/審査会議/結果発表
4月8日	第2次予選に通過できなかった参加者と審査員（任意参加）のミーティング
4月9日	第2次予選（小ホールで14時/20時15分）
4月10日	第2次予選（小ホールで14時/20時15分）/審査会議/結果発表
4月11日	セミファイナルに通過できなかった参加者と審査員（任意参加）のミーティング/Meet the Jury (Maak kennis met de Jury)というタイトルのシンポジウム（15～16時）
4月12日	セミファイナル（大ホールで14時30分/20時15分）
4月13日	セミファイナル（大ホールで14時30分/20時15分）/審査会議/結果発表
4月14日	審査員は自由行動
4月15日	審査員は懇親目的の遠足（キューケンホフ公園）
4月16日	ファイナル（大ホールで20時15分より）/審査会議/結果発表・授賞式

4. 入賞者に授与される賞

賞	内 容
第1位	賞金2万ユーロ、オランダ国内外でのコンサート契約、CDレコーディング
第2位	賞金1万ユーロ、オランダ国内外でのコンサート契約
第3位	賞金5千ユーロ、オランダ国内外でのコンサート契約
音楽評論家賞	5千ユーロ（セミファイナルにおけるリストのソナタの最優秀な演奏に対して授与される）
CenE Bankiers聴衆賞	2,500ユーロ（ファイナリストに与えられる聴衆賞）
Henk de By Incentive賞	2,500ユーロ（ファイナリスト以外の21歳以下の参加者のうち最上位だった者）
副賞	ファイナリスト全員にEvelien Goedkoopがリスト国際ピアノコンペティションのために特別にデザインしたリストのブロンズ像が授与される

5. 第7回コンペティションの結果（受賞者）

賞	氏名	国籍	生年
第1位	Yingdi SUN	中国	1980
第2位	Anton SALNIKOV	ロシア	1979
第3位	Christiaan KUYVENHOVEN	オランダ	1985
音楽評論家賞	József BALOG	ハンガリー	1979
CenE Bankiers聴衆賞	Anton SALNIKOV	ロシア	1979
Henk de By Incentive賞	Zhang ZUO	中国	1988

5. 受賞者に提供されるコンサート契約

下記以外にも複数のコンサートならびに音楽祭からの招聘が予定されている。コンペティション終了翌日からツアーが開始されるのが大きな特徴である。「優勝」「上位入賞」というホットニュースを最大限活用し、優勝者・入賞者の知名度、ひいてはコンペティション自体への注目を高める助けにしようというプランニングは新しい試みとして評価できる。出演が「1～3位受賞者」となっている場合、全員が出演するのか、そのうちの誰かが出演するのかの詳細は不明である。

日時	場所	契約内容	出演者
2005年4月17日	Amsterdam (オランダ)	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年4月18日	Amsterdam (オランダ)	リサイタル	1～3位受賞者
2005年4月22日	Maastricht (オランダ)	リサイタル	1～3位受賞者
2005年4月23日	Den Haag (オランダ)	リサイタル	1～3位受賞者
2005年4月24日	Leeuwarden (オランダ)	リサイタル	1～3位受賞者
2005年4月26日	Tilburg (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年4月27日	Nijmegen (オランダ)	リサイタル	1～3位受賞者
2005年4月29日	Apeldoorn (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月3日	Ijsselstein (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月6日	Houten (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月7日	Baarn (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月8日	Schiedam (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月11日	Leiden (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月12日	Eindhoven (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月13日	Woerden (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月16～17日	Algiers (アルジェリア)	コンサート	上位入賞者
2005年5月21日	Hattem (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月22日	Noordwijkaan Zee (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月28日	Helmond (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年5月29日	Utrecht (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年6月2日	Veere (オランダ)	リサイタル	1位受賞者
2005年6月7日	Mortsel (ベルギー)	コンサート	上位入賞者
2005年6月12日	Rotterdam (オランダ)	リサイタル	1～3位受賞者
2005年7月	インドネシア	リサイタル	上位入賞者
2005年7月後半	Sopron (ハンガリー)	コンサート	上位入賞者
2005年7月20日	Bayreuth (ドイツ)	リサイタル	上位入賞者
2005年7月24日	Kuhmo (フィンランド)	コンサート	上位入賞者
2005年8月7～13日	Abdij Rolduc, Kerkrade (オランダ、音楽祭)	リサイタル	1位受賞者
2005年8月4～20日	Gerderse Muziek Zomer (オランダ、音楽祭)	リサイタル	1位受賞者
2005年8月20日	Amsterdam (オランダ、音楽祭)	リサイタル	1位受賞者
2005年8月21日	Thorn (オランダ、音楽祭)	リサイタル	1位受賞者

日時	場所	契約内容	出演者
2005年10月1～7日	上海（中国、音楽祭）	コンサート	1位受賞者
2005年10月19日	Praha（チェコ）	ピアノ協奏曲	上位入賞者
2005年10月21日	Amsterdam（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年10月25日	Nijmegen（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年10月26日	Eindhoven（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年10月27日	Utrecht（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年10月28日	Groningen（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年10月29日	Enschede（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年10月30日	Leeuwarden（オランダ）	ピアノ協奏曲	1位受賞者
2005年11月4日	London（イギリス）	コンサート	上位入賞者
2005年11月	Caribbean（南アメリカ）	リサイタルツアー	上位入賞者
2006年2～3月	南アフリカ	リサイタルツアー	上位入賞者
2006年11月	ワイマール、ブダペスト、ユトレヒト、パリ	コンサート	上位入賞者
2006年冬	オランダ国内	2006年に開催されるインディアナポリス国際ヴァイオリンコンペティションの優勝者とのジョイントツアー	1位受賞者？
2007年春	アメリカ国内	2006年に開催されるインディアナポリス国際ヴァイオリンコンペティションの優勝者とのジョイントツアー	1位受賞者？

6. コンペティションで演奏する作品リスト

最大の特徴はファイナルで演奏しなければならない「ハンガリー狂詩曲」に付随するカデンツを自作しなければならない、という点だろう。披露されるカデンツが第三者に委嘱されたものではなく、本当に本人の手によるものかどうかは特に問題視されなかった。

第1次予選：以下のカテゴリーより20分以内のプログラムを選択する。
<p>A: 即興ワルツ、S-213</p> <p>B: 以下の作品より1曲</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 鐘、S-139/4 b. 練習曲イ短調、S-141/6 c. マゼッパ、S-139/4 d. 鬼火、S-139/5 e. 幻影、S-139/6 f. エロイカ、S-139/7 g. 荒野の狩、S-139/8 h. 雪あらし、S-139/12 <p>C: リストの作品より自由曲。複数の作品でも良いが、オリジナル作品であること、そして他のラウンドで演奏する作品と重複させてはいけない。</p>
第2次予選：以下のカテゴリーより30分以内のプログラムを選択する。
<p>D: 以下の作品より1曲</p> <ul style="list-style-type: none"> a. バッハの主題による変奏曲、S-180 b. 孤独の中の神の祝福、S-173/3 <p>E: 以下の作品より1曲</p> <ul style="list-style-type: none"> a. スペイン狂詩曲、S-254 b. メフィストワルツ第1番、S-514 <p>F: 以下の作品より1曲</p> <ul style="list-style-type: none"> a. シューベルト/リスト：Liebesbotschaft, S-560/10 b. ショパン/リスト：Meine Freude, S-480/5
セミファイナル：約50分のリサイタルプログラム
<p>G: ソナタ ロ短調、S-178</p> <p>H: リストの作品より自由曲。複数の作品でも良いが、オリジナル作品であること、そして他のラウンドで演奏する作品と重複させてはいけない。</p>
ファイナル：
<p>I: 以下の作品より1曲</p> <ul style="list-style-type: none"> a. ピアノ協奏曲第1番、S-124 b. ピアノ協奏曲第2番、S-125 <p>J: ハンガリー狂詩曲第2番、S-244/2（演奏者自作のカデンツを演奏すること）</p>

7. 国際審査員

審査員長は音楽家ではなく、基本的には演奏の評価にも参加しない（詳細に関しては後述「審査規定（抜粋）」を参照）。審査員長の役割は審査員会議で決定された結果の発表、メディアへの対応、および審査規定の遵守徹底や審査員間の意見調整など、法律家としての処理能力も要求される役職として規定されている。

氏名	国籍	現職
Dr. Albert van den HEUVEL (審査員長)	オランダ	元メディア・アカデミー学長、数々の放送関連団体の代表を歴任
Rolf-Dieter ARENS	ドイツ	ピアニスト、ドイツ国立ヴァイマル音楽大学学長
Idil BIRET	トルコ	ピアニスト
Andrea BONATTA	イタリア	ピアニスト、イタリア・ボルツァーノ音楽院教授、ブゾーニ国際ピアノコンペティション芸術監督、国際コンクール連盟副会長
Albert BRUSSEE	オランダ	ピアニスト、作曲家、音楽教育家
Janina FIALKOWSKA	カナダ	ピアニスト
Dr. Leslie HOWARD	イギリス	ピアニスト、作曲家、ブリティッシュ・リスト協会会長
今井顕 (Akira IMAI)	日本	ピアニスト、国立音楽大学大学院教授
Alexei ORLOVETSKI	ロシア	ピアニスト、1979年の回で2位に入賞
周廣仁 (ZHOU Guangren)	中国	元北京音楽大学教授

8. 参加者

20カ国からの48名が参加。うち男性34名、女性14名。参加者が多かった国としては中国（11名）、ロシア（7名）、日本（6名）が特出していた。参加者はボランティアとしてコンペティション事務局に登録しているゲストファミリー宅に宿泊するので、ホテル代はかからない。

国籍・性別は不問だが、参加者は1975年4月2日～1989年4月2日に生まれた者（16～30歳）に限られている。

演奏番号はコンペティション初日のくじ引きで決められた、予選で演奏する順番である。以下の一覧表は姓のABC順に表示してある。また、公式プログラムに写真と共に掲載されているが、実際に現地で演奏しなかった者は除外してある。

氏名	性別	国籍	生年	演奏番号	結果
赤松林太郎	男	日本	1978	9	第2次予選まで
Olga ANDRYUSHCHENKO	女	ロシア	1978	39	第1次予選のみ
Aïssa BAH	女	フィンランド	1977	27	第1次予選のみ
József BALOG	男	ハンガリー	1979	24	セミファイナルまで
Rufus CHOI	男	アメリカ合衆国	1976	19	セミファイナルまで
Alessio CIONI	男	イタリア	1979	45	第2次予選まで
Fleur CLAESEN	女	ベルギー	1979	10	第1次予選のみ
Christopher DEVINE	男	イギリス	1982	3	第1次予選のみ
Valeria DOVGAYA	女	ロシア	1985	6	第1次予選のみ
Markus ECSEGHY	男	ドイツ	1977	4	第1次予選のみ
永廣(えひろ)まり	女	日本	1979	47	第1次予選のみ
Goran FILIPEC	男	クロアチア	1981	7	第1次予選のみ
Elmar GASANOV	男	ロシア	1983	36	第2次予選まで
後藤正孝(まさたか)	男	日本	1985	1	第1次予選のみ
Sofya GULYAK	女	ロシア	1979	11	セミファイナルまで
Levi GUNARDI	男	インドネシア	1976	38	第1次予選のみ
平田尚子(ひさこ)	女	日本	1978	37	第1次予選のみ
Jens HOFFMANN	男	ドイツ	1976	17	第1次予選のみ
Kuo JIN	女	中国	1988	25	第1次予選のみ
Tamasz KAMIENIAK	男	ポーランド	1981	31	第1次予選のみ
Vedrana KOVAC	女	クロアチア	1979	46	第1次予選のみ
Christiaan KUYVENHOVEN	男	オランダ	1985	16	第3位
Rosamaria LATIFI	女	オランダ	1988	8	第1次予選のみ
Maykin LERTTAMRAB	男	タイ	1983	43	第1次予選のみ
Xin LI	男	中国	1982	18	第1次予選のみ
Hayk MELIKYAN	男	アルメニア	1980	12	第1次予選のみ
Milan MILADINOVIC	男	セルビア	1978	15	第2次予選まで
Olga MUSTAFAEVA	女	ロシア	1979	5	第2次予選まで
François PINEL	男	フランス	1978	32	第1次予選のみ
Vitaly PISARENKO	男	ウクライナ	1987	40	第2次予選まで
Pavel RAYKERUS	男	ロシア	1982	35	セミファイナルまで
Alessandro ROSELLETTI	男	イタリア	1975	29	セミファイナルまで
Anton SALNIKOV	男	ロシア	1979	44	第2位
Yingdi SUN	男	中国	1980	41	第1位
田村響(ひびき)	男	日本	1986	20	第2次予選まで
Péter TÓTH	男	ハンガリー	1983	42	第1次予選のみ
Victor VALKOV	男	ブルガリア	1980	28	第1次予選のみ
Di WANG	男	中国	1987	23	第2次予選まで
Fan WANG	男	中国	1983	48	第1次予選のみ
Siyuan WANG	男	中国	1982	13	第2次予選まで
Andrew WRIGHT	男	アメリカ合衆国	1983	30	第1次予選のみ
Mingyi WU	男	中国	1980	2	第1次予選のみ
Xiaohan WU	男	中国	1983	21	第1次予選のみ
Yi XU	男	中国	1979	14	第1次予選のみ
Yingjia XUE	男	中国	1980	26	第1次予選のみ
山本佳澄(かすみ)	女	日本	1981	34	第1次予選のみ
Ji-Yeon YEOM	女	韓国	1979	33	第1次予選のみ
Zhang ZUO	女	中国	1988	22	セミファイナルまで/入賞

9. 審査規定（抜粋）

通常の国際コンペティションと大きく変わるところはないものの、いくつか特徴的なものを抜粋で以下に紹介する。

〈審査員長の規定〉

- ・審査員長は複数の参加者の評点が同点となって順位の決定に支障が生じた時以外、採点評価に参加しない。

〈審査員と参加者との関係〉

- ・予選が進行中、審査員は参加者と個人的なコンタクトをとってはならない。また公開の場で参加者やコンペティション運営に関するコメントを公表してはならない。すべてのアナウンスは審査員長より行われる。
- ・参加者の中に同僚や生徒がいる審査員はその旨を申告し、該当する参加者の採点を行うべきかの判断を審査員長に仰がなくてはならない。（筆者も参加者の内2名がこの項に該当すると思われたので口頭で申し出たところ、審査員長の指示は「採点するか棄権するかは自分で判断して構わない」というものだった。全審査員を公平・厳密にチェックするのではなく、不正を行う恐れがある審査員に対処できる手段を準備しておく意味合いが強い規定であるように理解した。）
- ・審査員の親族（第三等親まで）はコンペティションに参加できない。

〈予選通過に関する規定〉

- ・第2次予選に通過する参加者は18名以内、セミファイナルには9名以内、ファイナルには3名以内に限られる。

〈審査方法に関する規定〉

- ・予選の採点には「イエス/ノー/棄権」の評点と100点満点方式による点数（小数点以下は使用しない整数点）が使用される。各審査員は規定の人数分（第1次審査終了時には18名、第2次審査終了時には9名、セミファイナル審査終了時には3名）の「イエス」票を記名して提出する。これによって結果がまとまらない場合（票が同数など）に、初めて点数が参考にされる。「棄権」票は前述の「同僚あるいは生徒」の条項に該当する際に使用するもので、単に「判断を他の審査員に委ねる」目的では使用できない。
- ・特定の審査員1名の点数が審査員全員の平均点より25%以上高い/低い場合、この点数は平均点に変更された上で、集計される。2名以上の審査員の点数が25%ラインを超えている場合には、このルールは適用されない。

〈賞の授与に関して〉

- ・賞の分割は行わない。ファイナルの評価が同点となった場合は、セミファイナルでの評価を加味し、順位を決定する。

10. コンペティションの報道に関して

コンペティションの開催や経過が「事後報告」ではなく、スポーツ競技のように「現在の状況」が報道され、視聴者の興味を喚起するための意気込みが感じられた。

〈テレビ関連〉

・オランダの放送局NPSがコンペティション開催中にドキュメンタリーを制作。コンペティション開催中の4月10日（日）午後1時より“Race to success”というタイトルの番組が放映された。これは2002年に開催されたリストコンペティションのドキュメンタリーである。

・4月11日午後11時50分には“The top in sight”という現在進行中のコンペティションの最新情報が放映された。今回のコンペティションの総括ドキュメンタリーはコンペティション直後の4月17日（日）午後1時および翌18日（月）午後23時50分に放映されている。

〈ラジオ関連〉

・Radio 4のチャンネルにおいて4月10～17日までコンペティションの特集が組まれた。セミファイナルとファイナルは録音され、コンペティション終了後の放送にも使用される予定。またファイナルの様子はライブで中継された。

〈インターネット関連〉

・www.liszt.nlおよびwww.jongtalentopradio4.nlを経由してコンペティション予選における全演奏が映像、音響共にストリーミング公開された。これによって全世界どこからでもコンペティションの演奏を鑑賞することが可能になった。

・www.liszt.nlのウェブサイトでは受賞者のコンサート活動の状況が頻繁にアップデートされている。

11. その他

コンペティション開催に先立ち、ユトレヒトを含むヨーロッパの都市でEarl WILD, Andrea BONATTA, Dmitri BASHKIROV, Oxana YABLONSKAYAらの指導によるマスタークラスが開催された。その後アジア地区（香港、北京、ソウル、東京、台北および上海）でも審査メンバーの一員であるDr. Leslie HOWARDの指導によるマスタークラスが開催された。

次回（第8回）の開催は2008年に予定されている。今回よりさらに規模を拡大し、世界各地における予備予選を行うことが計画の一部として検討されている。

12. 最後に

総予算規模約100万ユーロで企画された大規模なコンペティションにもかかわらず、企画を進行させるスタッフはほんの数人（常駐は3名のみ）のチームで、その効率の良さは特筆すべきものであった。またコンペティションを企画し、実施期間中もそのすべてを掌握している事務局長Quinten PEELENはまだ30代の若者である。過去の慣習に捕らわれない新鮮な印象が、コンペティション全体に漲っていた。本コンペティションがインターネット上に公開しているオフィシャルサイトのURLは<http://www.liszt.nl/>である。必要に応じて参照されたい。